

今年もお米がとれま
した。わが家は周辺農家の稲
刈りを請け負っていて、今
年は三十軒以上の田んぼに
出かけました。

一口に稲刈りといつて
も、いろんな田んぼがあり
ました。道路に面していな
い田んぼでは能率が悪く、
傾斜地では危険も伴いま
す。大型機械での作業を考
えると、広い四角形の田ん
ぼが理想的。しかし、いく
ら面積を増やしても、種や
農薬を飛行機でまくメリ
カにはかきません。しか
も多額の出費を伴う大規模

きょうの 発言

な基盤整備事業をしても、
農家と農地の減少に歯止め
はかかっていません。全国
どこでも同じ風景になり、
田んぼや水路に昔からいた
メダカやホタルを失おうと
していることも残念です。
一カ月以上にも及ぶ稲刈
り作業を終えて、食料を安
定生産するためには確かに
基盤整備が必要だと感じま

田んぼいろいろ

大津 耕太（農業）

した。しかし、お米が余っ
ているというのに、いまだ
に食糧生産だけを考えた基
盤整備でよいのでしょう
か。逆に基盤整備によって、
地域の豊かな自然を残せ
ば、農村は癒しの場や教育
の場にもなります。また、
変化に富んだ美しい風景を
つくれれば、たくさんの人を
惹きつけるでしょう。
ドイツも日本と同様、戦
後の食料増産のために大規
模で画一的な基盤整備を行
いました。その結果、自給
率は100%を超えました
が、道路や水路の直線化に
よって、自然や風景の破壊
が進んだことも事実です。
その反省から、今では自然
や風景に配慮した、きめの
細かい基盤整備を行うよう
になりました。なだらかな
丘陵地帯に広がるドイツの
農村風景は人々を惹きつ
け、国内だけでなく世界中
から、農村で休暇を過ごす
人が絶え間なく訪れます。
地元雇用は増えて、農家の
収入も上がっています。次
回は、このドイツでの取り
組みを紹介します。